特集　社会の課題に取り組む企業

パナソニックセンター大阪「あるままOYAKO」でお母さんを笑顔にするということ

親子の居場所　イドバタ

JR大阪駅に直結する商業施設「グランフロント大阪」にある「パナソニックセンター大阪」が、来年1月に閉館する。2013年、グランフロント大阪開業と同時にオープンした同店。地下1階は住宅設備展示、1・2階は家電などの体験エリアとカフェエリア。そして今年4月に開所したのが、若年層のソーシャルアクションを応援する「あるまま BASE」と、母親たちをつなぎ、子育てを応援する「あるまま OYAKO」。2018年には来場者数1000万人、2021年4月には1500万人と大阪の玄関口としてにぎわいをつくってきた同店だが、コロナ禍で今後の集客が見込めないこと、DX（デジタルトランスフォーメーション）の加速といった社会環境の変化を理由に閉館することになった。1・2階の営業は来年1月31日まで。

※地下1階リビングフロアのみ2月末閉館。来春、商業施設「松下IMPビル」（大阪市中央区城見）に移転する。

文／青柳真美　写真／コニコニフォトワークス 小西健三

https://www.panasonic.com/jp/center-osaka/

パナソニックセンター大阪●0800-170-3860　〒530-0011
大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館2階～地下1階

ショウルームの概念を超えて

あるまま OYAKO ー“孤育て”をなくし、一緒に子育てを楽しむ場

あるまま BASE ー身近なことから社会課題を知り・考え・行動する場

藤本●いつも「お母さん業界新聞」を応援していただき、ありがとうございます。パナソニックセンター大阪の閉館は残念ですが、今日は、この場を振り返ることで、未来につなげられたらと思います。

三浦●弊社ショウルームとしては国内最大規模、最新家電や住宅設備の体験・相談コーナーを含めお客様と直接ふれあえる場でしたので、会社も苦渋の選択です。私としては「あるままBASE」「あるままOYAKO」に足を運んでくださる方が増えてきたところだったので、その方たちのことが気になります。一時休館のときも、ガラス越しに「開けて！」と泣き叫んでいる子どもがいたとも聞いていて、辛いところです。

パナソニックセンター大阪
三浦美賀子さん

藤本●行政の子育てひろばでもないのに、いつでも親子で立ち寄れる場所なんですね。

三浦●売ることを直接の目的としない、ショウルームの概念を超えた場所です。モノに溢れる豊かな時代になってきてなお、私たちは毎日を笑顔で過ごせているかというとそうではない。お母さんたちにも便利な製品を提供し、社会進出を応援してきましたが、実際はそれだけでは満たされないものがあるようです。

藤本●三浦さんのお母さんとしての実感でもありますね。

三浦●特に大きな問題だと思うのは「孤独」です。赤ちゃんと2人。なんで泣いているのか、なんで寝てくれないのか…子育ては不安ばかり。それをお母さん一人で抱えていては少子化は止まらず、社会は回っていかないと思うんです。そういう社会的なこと、地域や家庭に目がいくようになったのは、お母さん業界新聞と、宇賀さんとの出会いが大きかったですね。

宇賀●今だから言えますが、はじめてお会いした三浦さんはパリパリのキャリアウーマンでクールな女性。スキがなく、住む世界が違う人という印象でした。私たちの活動や新聞の意味…お母さんの小さな悩みに寄り添うことをお伝えしても通じるかな？と。

三浦●「お母さん業界新聞」には共感できても、どう活用すればいいのかわかりませんでした。「子どもってこんなにかわいいよ！」という記事はほかでも見てきたけれど、「子育てってしんどい！泣きたい！投げ出したい」という赤裸々な記事を見ることで、私自身も救われました。きっとこんな新聞が人の心を通わせるきっかけになるのではと、おつきあいが始まりました。

藤本●三浦さんご自身の子育てについて、教えてください。

三浦●18歳（高3）の娘がいて0歳から5歳の間は主人が単身赴任でワンオペ状態でした。2歳まで石川県金沢市にいてその後大阪に転勤になりました。当時は自動販売機を中心とした食品機器の法人向け営業を担当し、責任者でもありました。今でこそ「仕事と家庭の両立」といわれますが、当時は意識が薄く、制度や環境も整っていませんでしたので、周りに迷惑をかけまくり、なんとかやってきたわけです。

お母さん業界新聞大阪版編集長
宇賀佐智子

宇賀●でも「孤育て」ではなかったのですね。

三浦●地域のお母さんたちにはいろいろと助けてもらいました。娘のパジャマは数軒に預けていましたし、夜の会食に娘を連れて行ったことも。大事な会議で保育園のお迎えが間に合わず、職場の人にお願いしたこともありました。

藤本●素晴らしい！

三浦●娘には、勉強なんてできなくていいけれど、人とコミュニケーションできる人になってほしいと思っています。私が宇賀さんを尊敬しているのはそこです。ものすごく人に近くて、人の心の扉を開けるのが上手い人です。

宇賀●その言葉は三浦さんにそのままお返しします。4月のリニューアルもわずか3か月でこの場がつくれたのは、三浦さんの人間力あってのものの。本当に大変でしたよね。

三浦●本当に周りの人に助けられました。それぞれの思いが最大限お客様に伝わるよう寝る間を惜しんで考えました。

宇賀●あるままBASEは「身近なことから社会課題を知り、考え、行動する場」、あるままOYAKOは「孤育てをなくし、一緒に子育てを楽しむ場」というコンセプトですね。

三浦●「あるまま」は弊社の創業者、松下幸之助の言葉がルーツです。「素直な心とは、

一つのことにとらわれずに、物事をあるがままに見ようとする心。そういう心からは物事の実相をつかむ力も生まれてくる」。ネットで着飾ることで苦しくなってしまう現実もあります。あるがままの自分で、あるがままに人も世界も見ていきましょう。しんどいときに助けてと言える関係づくりを目指しています。

藤本●幸之助さんの言葉だったのですね。素敵な名言です。

三浦●大阪の玄関口といっても、人に入ってもらわないといけません。でも家電を買わされるんじゃないか、アンケートを書かされるんじゃないか、そういう空気ではダメ。まずは楽しんでもらおう。人に寄り添い、人を大事にしよう。

折々おしゃべり会ー「ここでみんなに会えるのを楽しみに1か月がんばるんです」というお母さんも！

えほん箱ー絵本を開くと自然と子どもたちが集まり、みんな笑顔に

ここで良いことがあったら人にも家族にもやさしくなる。そんな幸せの連鎖を起こそう。パナソニックがこんなことをやっていると知ってもらい、いつかモノを選ぶときに思い出してもらえばいい。ブランド力、認知力を上げることがコーポレートショウルームとしての役目で、地域とつながる必要性を感じました。

宇賀●この辺りは都会すぎて、親子の遊び場も少ないし、貧困や虐待の話も漏れ聞きます。

三浦●地域の社会福祉協議会と連携し「フードドライブ」やシニアの方と子どもをつなぐイベントなどを実施しています。お母さん大学との「折々おしゃべり会」では常連さんほか毎月新しい顔ぶれでにぎわっています。子どもを傍らに遊ばせ、お母さん同士が新聞を折りながらおしゃべりを楽しみます。自然と見えない絆が生まれ、心のよりどころになっていると感じます。

お母さんの心のよりどころに

藤本●ただ場所があればいいのではなく、誰がどんな気持ちでもてなすかが重要です。

宇賀●本当にそうです。人に会ってホッとするために来るんです。靴を脱いでゆっくりしてほしい、おむつ交換も授乳もできるよう給排水も絶対に必要と、会社に無理を通したとおっしゃっていましたね。

三浦●梅田で買い物！と張り切って出てきたものの人混みで子どもはギャン泣きです。「早よ帰らなきゃ」と焦り、「来なきゃよかった」と後悔する…そんな負のループが痛いほどわかるので、親子で寛げる場所をつくりたかったんです。

宇賀●あるままOYAKOの中にある「センサリールーム」の特徴を教えてください。

三浦●音や色の変化、振動などで感覚を刺激することでリラックスでき、いつもよりゆっくりと親子が向き合える場所です。子どもたちはバブルタワーに抱きついたり、光ファイバーを動かしたり…。お疲れのお母さんも癒されています。「えほん箱」コーナーも、安らぎの場になっています。

宇賀●親子のために何を置こうか…と相談を受けたとき、「みんなが笑顔になる絵本を厳選します。私たちにやらせてください」と即答しました。

三浦●「お母さんがわが子に読んで、すごくよかった！」という本を選んでもらっているんです」と言うと、「それは間違いないですね！」と喜んでいただいています。

宇賀●スタッフの皆さんも、いつも笑顔が素敵ですね。

三浦●スタッフには、子どもと遊ぶことよりお母さんと話すことを優先してと言っています。子ども優先で自分を見失いがちなお母さん。でもお母さんがここで自分を取り戻し、心の充足を得られれば笑顔になれます。「親子の居場所イドバタ」の由来もそこです。

藤本●NPOでもなく、大企業が取り組むのは大変です。

三浦●何のためにつくるのか？社内の賛同を得るのは容易ではありませんでした。家庭に寄り添った商品づくりをしてきた当社だからこそ、より踏み込んだ活動がお客様に響くのですと言い続けました。愚痴や相談を口に出せる、靴を脱いで息抜きする、束の間のやさしい時間が、人を社会を変えることができると信じて取り組みました。それは、私自身が救われたから、娘をたくさんの人に一緒に育ててもらった「恩返し」を絶対にしたいと思ったからです。

藤本●閉館はコロナの影響もあったのでしょうね。

三浦●在宅勤務をする人も増え、働き方も変わってきています。人も企業もどれだけ本質で生き抜いていけるかが試される時代です。場所はなくなってしまいますが、お客様や支援してくださる方々との深く強いつながりを信じ、どこかで活動できることを模索したいと思います。そして、閉館の知らせを聞いて、代わりに場所を探してくださる方もいて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

藤本●三浦さんのやってきたことは本質的なこと。効果はまだ見えなくてもたくさんの仲間や応援団がいるはずです。それにあくまで場は場です。大事なのはコンテンツと人ですから、これからどこでもやれます。三浦さんのような、お母さんたちに「寄り添える人」を育てていくことが、新たな仕事なのかもしれません。

宇賀●社会や会社に向けての発信もポイントですね。

藤本●SDGsやCSVなど企業の社会的責任が問われています。パナソニックさんが地域とつながる場をつくられたことは社会的インパクトが大きいと思います。リーディングカンパニーとして時代を読みながらカタチを変えていく…これもまた必要なことでしょう。お母さん大学では来年から「仕事と家庭の両立」をテーマに情報発信をしていきます。三浦さんのご経験をお母さんたちの学びとして、ぜひ共有させてください。

三浦●はい。お母さんたちが元気で活躍できる社会でなければ、未来はありませんね。

宇賀●最後に、お母さん大学としてイベントをご一緒する機会をありがとうございます。

三浦●1月に「あるままOYAKOフェス」を開催します。コロナは先が見えませんが、家庭という小さな社会でがんばっているお母さんたちにエールを送りたいと思います。

藤本●お母さんと子どもたちで、ここをいっぱいにしたいですね。当日は私たちもおじゃまして、今日のようなお話もできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

お母さん業界新聞全国版編集長
藤本裕子

2022 1/22[土]

JR大阪駅直結・グランフロント大阪南館
パナソニックセンター大阪×お母さん大学
あるまま OYAKOフェス
2022年1月22日（土）12:00～17:00　＼参加無料／
親子で体験いただける楽しいイベントです！
ご家族やお友だちと！ふらっと参加も歓迎！
※事前予約が必要なコーナー、プログラム変更もあり。詳しくはHPで！

お土産やプレゼントも多数ご用意。ご来場をお待ちしています！

トークショー
13:15～13:45「家族で世界一周旅行」
スライド&トーク：戸田 愛（とことこあーす）
子連れ海外旅行のヒント、夢を叶える方法も！
13:45～14:15「お母さんの夢・表紙の親子351組」
スライド&トーク：宇賀佐智子（お母さん業界新聞大阪版編集長）
大阪版の表紙を飾ってくれた親子を一挙ご紹介！
14:30～15:30「お母さんの笑顔は究極のSDGs」
三浦美賀子（パナソニックセンター大阪）×藤本裕子（お母さん大学）
がんばっているお母さんにエールを送ります。
詳しくはコチラ

特別ゲスト　12:00～13:00／絵本 de おはなし会

MBSアナウンサー 関岡 香さん
MBSの関岡香さんは、絵本愛好家としてもおなじみ。子育て中の絵本エピソードを交えた楽しい読み聞かせの会です。絵本の世界をのぞいてみてください。

ワークショップ　12:00～17:00／絵本カバー de ポチ袋づくり
絵本カバーを型紙に合わせ切って、世界でたった一つのオリジナルポチ袋を作りましょう（なくなりしだい終了）。
12:00～17:00／あるまま OYAKO 新聞づくり
子育ての“今”を書き残そう。質問に答えていくだけで、簡単マイ新聞の出来上がり。子育てを楽しむヒントがいっぱいの体験ワークショップです。

12:00～17:00
★みそまるバイキング★
お1人1杯、お好きな味噌汁を選んでお飲みいただけます（なくなりしだい終了）。
①13:15～14:15　②15:45～16:45
みそまるワークショップ〈要予約〉
味噌を学び、みそまるをつくろう！
味噌伝道師MISODOさんによる、簡単で楽しい味噌活のすすめ。ヘルシー&時短みそまるをつくってお持ち帰り。15人限定。

味噌伝道師 MISODOさん

JR大阪駅直結のパナソニックセンター大阪では、2021年12月1日～31日にさまざまな発見！体験！学び！創造！がつまったイベントを開催します。
＼詳しくはこちら！／
パナソニックセンター大阪 検索